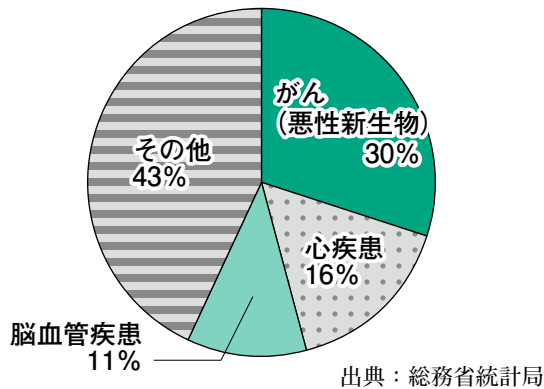


日本人の三大死因による死亡状況／平成21年



がんは日本の国民病

がん(悪性新生物)は、日本人の死因第1位です。男性は2人に1人、女性には3人に1人が一生のうちにかんにかかる可能性があると考えられています。近年の検査技術や診療技術の進展により、早期の発見・治療ができ、死亡率を下げる事が可能になりました。がん検診の必要性や有効性はますます高まっています。

受けよう がん検診

「がん検診 愛する家族への贈りもの」



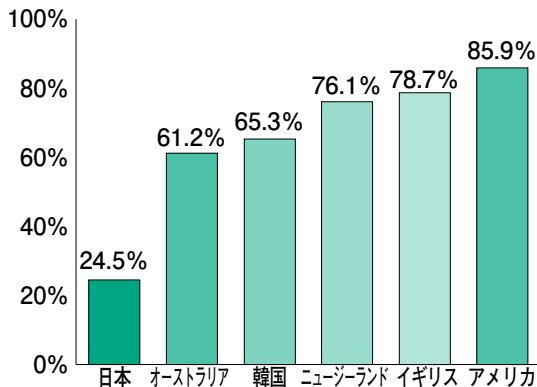
がん検診の受診状況

がん検診の受診率を国別で見ると、子宮頸がんにおいて、欧米では70%以上であるのに対し、日本は20%程度ととても低いのが現状です。市の受診率を見ると、肺がんは県の平均を上回っていますが、胃がん・大腸がん・乳がんの受診率は県の平均よりも低く、国が目標とする受診率50%に遠く及ばない状態です。

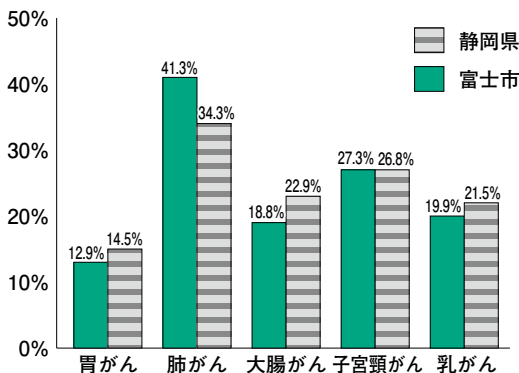
富士市のがん検診

市内に住民登録がある人で、ほかでがん検診を受診する機会がない人が対象です。がん検診を受診する際には、健康保険証、運転免許証など本人確認のできるものをお持ちください。がん検診の種類や検査方法は、下の表をごらんください。

子宮頸がん検診の国別受診率(20～69歳)



がん検診受診率(県と富士市の比較)／平成21年度



問い合わせ 健康対策課

☎(64)8992
FAX(64)7172

検診の方式は、検診車による「集団検診」と医療機関で受診する「個別検診」があります。また、指定年齢の人を対象に、まとめて検診を受けられる「がんドック検診」や、無料クーポン券による助成制度があります。※詳しくは、『平成24年度健康カレンダー』をごらんください。

★は2年に1度の検診になります。

検診名	対象年齢	検査方法
胃がん検診	50歳以上	バリウムを飲んでレントゲン撮影
大腸がん検診	50歳以上	2日分の便の検査
肺がん検診	50歳以上	胸部のレントゲン撮影 50歳以上の喫煙者などに喀痰検査
子宮頸がん検診	20歳以上	子宮頸部の細胞を検査
乳がん検診	40歳以上	子宮頸部と体部がん検査(有症状者など)
前立腺がん検診	50歳以上	血液検査